

第 2 回 胎内市総合計画策定審議会 議事要旨

1. 日時

平成 27 年 7 月 31 日（金）19：00～21：00

2. 場所

胎内市役所 大会議室

3. 出席者

【胎内市総合計画策定審議会委員】

中野友美委員、坂上タキ江委員、高橋三樹男委員、中原拓也委員、関谷浩史委員、高橋賢一委員、安城守英委員、威本悠希委員、久世秋絵委員

【その他】

地方創生プロジェクトチーム（赤塚隆一、伊藤祐樹、佐藤友美、鈴木孝）

【事務局】

総合政策課長、総合政策課企画政策係長、係員、計画策定支援事業者

4. 議事内容

事務局より資料に沿って説明を行った後、総合戦略の基本目標、施策の基本的な方向及び具体的な施策案について各委員から発言。主な発言内容は下記のとおり。

- 最近進出してきている物流センターやインターネット通販で雇用を生み出すことも大事ではないか。また、物流を考慮すると交通の整備も必要。
- 工場の誘致と言っても、企業が単独で進出するのは難しい。トップ企業の下請けを誘致するなど産業クラスターのように集積できると良いのではないか。例えば、現在胎内市には航空機の産業が立地し、航空機産業関連の企業が進出しているので、航空クラスターを形成できるのではないか。
- クラレ等といった大企業が立地しているので、地域外から資材を調達しているようなものを、ヒアリングするなどしてなるべく地域内でお金や物を回せる仕組みが必要なのではないか。
- 空き家を利用して、小さな起業を支援あるいは移住を促進することも必要。
- 個人で経営したままでは後継者不足になり、就農支援もままならないので、法人化することで、農業の課題である技術の継承と後継者不足の両方を解消していけるのではないか。
- 小中学校の教育として、地域の仕事を子どもにアピールすることも大事ではないか。長岡の青年会議所では、子どもを対象に測量体験等を行い、好評だったようだ。
- 観光について、「胎内」という言葉をうまく生かしたものができないか。胎内観音は安産祈願の場であると言われているので、胎内の子育て等に絡めていけるのではないか。
- 観光と食をセットにするなど、パッケージ化して雇用促進等を図れないか。
- 就職に関して、専門学校で技術を教育するような部分が欠けている。定住自立圏構想の中で、新発田にある旧職業訓練校等をうまく利用して技術のある人を育て、市内で交流するといった視点が必要ではないか。
- 若者は長い文章を読まない、SNSを利用するといった特徴があるので、広報誌やホームページに頼らず、若者の好むような情報発信を行うという視点も必要ではないか。

- 空き家をまず把握し、利活用できるものを発信していくべきではないか。
- 宅地がないという話もあった。住宅ローンは、現在金利が低く利用しやすい状況なので、宅地の提供ができれば胎内市での定住につながるのではないか。
- まちの魅力として課題として、食べに行く店や公園は実際にはあるけれども点在しているため、これらが不足しているという意見が出ている。新興住宅地では特に不足感があるようだ。
- 子育てに関しては伝え下手の印象があり、必要な時に必要な情報を得ることができていないようだ。無料のサービスを望んでいる訳ではなく、胎内市は既存のものをうまく宣伝していくことで子育てに優しいまちになるのではないか。
- 何としても結婚してもらわなければ子どもという話にならないので、出会いが重要だ。市が取り組んでいる婚活プロジェクトの取組みも悪くはないが、結婚を前面に出した取組みなので、敷居が高い。もっと敷居を低くして、例えばスポーツといったサークル活動のような自然な出会いを提供していくことはどうか。その際に、来年竣工予定の体育館を利用できるのではないか。
- 不足していることもあるが、子育てへの取組みは既に様々行っている。うまく宣伝をすることや、出会いの場を設けることで結婚・子育てという流れができるのではないか。新発田市が新潟のベッドタウンになっているように、胎内市ももう少しアクセスを良くして新潟との時間を縮めるような方策を取れば勤め人が住み着き、その家族の分も人口が増えるということになるのではないか。新発田と比べれば土地は安いので、雇用の場というよりは、まず住み着いてもらうということを考えれば良いのではないか。